

## たくさんの真心ありがとうございます

下記の方々から本会に寄附金・支援金をいただきました。本当にありがとうございました。(平成25年12月末現在)  
 平成25年11月14日宮城県仙台東高等学校さまより法人のために……………126,949円  
 平成25年12月3日株式会社ブリッジさまより社会福祉事業のために……………51,613円  
 平成25年12月17日JX日鉱日石エネルギー労働組合東北支部さまより施設のために……………4,500円  
**東日本大震災に関する支援金**  
 平成25年11月5日株式会社ブリッジさまより…45,906円

お寄せいただいた支援金は東日本大震災による復興支援のために活用させていただきます。

## 宮城県内の事業者と災害時における協定を締結しました

平成25年12月1日、本会とテクノ・マインド株式会社は「災害時における業務委託に関する協定」を締結しました。

この協定は、本会が策定した「被災地の地域福祉活動指針(ガイドライン)」に基づき締結したものです。大規模災害が発生し、「特例措置による生活福祉

資金貸付」が実施され、短期間に多くの資金需要が起きた場合でも、迅速な資金の提供を確保するため、他に優先し、生活福祉資金貸付業務の一翼を担ってもらうものであり、テクノ・マインド株式会社のご理解とご協力により締結に至ったものです。

## 評議員変更のお知らせ

**退任**(平成25年11月15日) **新任**(平成25年12月20日)  
 評議員 小野寺 徹氏 評議員 齊藤 典夫氏

## 会員の募集について

本会では活動の趣旨に賛同いただき、地域福祉の推進にご協力をいただける団体または個人の会員を募集しています。

### 【会員区分】

- 第二種会員(社会福祉施設)
- 第三種会員(社会福祉関係団体)
- 賛助会員(団体及び個人、一口1万円から受け付けています)

問い合わせ/宮城県社会福祉協議会 企画・財務課  
 TEL/022(263)0949

## オススメ製品の紹介

県内の障害者就労支援事業所で作るオススメの製品を紹介します。

### ●「むすび丸」 マグネット、クリップ、キーホルダー

TOMOTOMO・YOUYOUでは、宮城県観光キャラクターの「むすび丸」を県内でいち早く製品化し、木や本革を使用したマグネット・クリップ・キーホルダーを製作しています。木工製品は一枚の板から切り出し、やすりがけ、色付けまでの全ての工程を手作業で行っています。革製品は全ての作業において手が込んでおり、メンバー、スタッフ丸となって頑張っています。「むすび丸」全ての製品は手作りの温もりが感じられる作品となっています。



富谷町地域活動支援センターTOMOTOMO・YOUYOU  
 〒981-3311 黒川郡富谷町富谷字桜田1-7  
 TEL/022(779)0241 FAX/022(779)0270  
 ☐ Tomiya-katsudo@eiraku.or.jp

### ●フォトスタンド

ぱれった・けやき木ノ下では手づくりの木工製品、手芸製品などを制作しています。こちらの木製フォトスタンドは木のやすりがけ、色塗り、組み立てという工程を経て完成します。一つ一つ手塗りで仕上げられており、よくみると一匹一匹違った表情をしています。犬、ねこなど各種取り揃えています。ギフトなどに大変喜ばれる商品となっています。



社会福祉法人ゆうゆう舎 ぱれった・けやき木ノ下  
 〒984-0047 仙台市若林区木ノ下2-2-3  
 TEL/022(257)0525 FAX/022(257)0525  
 ☐ Paretta-zelkova@crest.ocn.ne.jp  
 URL/http://www.zelkova-p.com

# 復興被災地のいま

平成25年12月21日、宮城県サポートセンター支援事務所、宮城県、宮城県社会福祉協議会の共催のもと、利府町保健福祉センターにて「仙塩地区で避難生活をされているの方々のための広域交流・相談会」を開催しました。



参加者は東日本大震災の発生時に石巻市、女川町、東松島市に居住されていた、現在は仙塩地区(多賀城市、塩竈市、利府町、松島町など)に避難された民間借上げ住宅(みなし仮設)で生活されている方が対象でした。また、交流会と併せて同会場にて生

活に関わる相談会を開催。仙塩地区の応急プレハブ仮設住宅に居住されている方にも呼びかけを行い、弁護士や税理士、司法書士、社会福祉士などの専門家の協力をいただきました。

みなし仮設の居住者には出身地から離れ、新たな土地で生活している方もいます。そのような中で、情報や支援の手が届きにくくなり、孤独感や不安を抱えている方も多くなっています。そのため、交流会を通じて現状を緩和することを目的にこの交流会を開催しました。

交流会は参加者の出身地ごとに石巻、女川、東松島、その他の地域の4つのブースに分け、同郷サロンとして参加者間で思い思いに懇談していただく場づくりを行いました。各ブースに



は出身市町の行政担当者や社協担当者だけでなく、現在の避難先である利府町や多賀城市の関係者、民生委員なども加わり、復興の進捗状況や災害公営住宅への移行、現在の支援体制などについて説明されました。

参加者からは「災害公営住宅へいつ入れるのか」「避難先での近所付き合いが希薄」などといった今後の生活の不安や現在の悩み、支援制度などに関する質問が多く聞かれました。また同郷の方との再会を喜び、思い出話をしたり、故郷を思う気持ちを語り合いながら互いの連絡先を交換し、次の再会を約束する姿もみられました。

当日は、リフレッッシュコーナーとしてベガルタ仙台の協力をいただき、マスコットキャラクターのベガッ太くんとのじゃんけん大会と写真撮影会、東北学院大学の学生ボランティアによる吹奏楽演奏が行われ、和やかな雰囲気会場を包み込みました。参加者は「昨年度も参加して楽しか



ったので今回も参加した。久しぶりに多くの方とふれあい、お話しすることができて非常に楽しい時間を過ごすことができました。また明日から頑張ろうという気持ちになった」と話されていました。

東日本大震災の発生から間もなく3年を迎える中、災害公営住宅の入居は平成26、27年度から本格化します。そのため被災者の皆さんが安心して生活を送れるようになるまでには、まだまだ長い道のりが残っています。今後は、対象地域を増やすとともに被災者の現状やニーズに合わせた交流の場を提供し、被災者が抱える悩みや課題の解決に向け、関係機関と連携して取り組んでいくことを目指していきます。